

小・中を円滑につなぐ授業実践

－「すてっぷ」プロジェクトを通して－

M13EP009

古屋 友香

1. はじめに

「児童が、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へうまく適応できず、不登校等の問題行動につながっていく事態」(中央教育審議会初等中等教育分科会 学校段階間の連携・接続等に関する作業部会, 2012) は、中1ギャップと呼ばれる。

文部科学省 平成23年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によると、学年別不登校数は、小学6年では7,522名なのに対し、中学1年では21,895名と、約3倍に増加している。山梨県でもおよそ3.5倍と同様の傾向が見られ、全国値よりも深刻な状況にある。

原因としては小・中学校の生活の大きな変化に順応するのが困難な場合が多いと考えられる。しかし、進学にあたって、小・中学校ともに適切な策を講じているかどうか、改めて見直してみる必要があると考える。そこで、連携協力校での実習を通して、中学校教員の立場から小学6学年児童の実態をより深く理解した上で、小・中学校を円滑につなぐための授業を実践することとした。

2. 先行研究

中1ギャップの原因としては「1. 学習にかかわること 2. 発達段階にかかわること 3. 生活習慣や生活リズムにかかわること 4. 仲間づくりにかかわること」(石川他, 2009)と大きく4つが挙げられている。これらは、学校の教育活動全般に関わることである。ということは、学校の教職員全体で真剣に向き合い対応すべき問題なのである。

また、小学校学習指導要領(平成20年3

月)の特別活動〔学級活動〕2内容、共通事項の(2)アには「希望や目標をもって生きる態度の形成」と書かれている。小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成20年8月)では、その説明として「児童が自分に自信をもち、現在及び将来の生活や学習によりよく適応し、自己を生かそうとする生活態度を育てることは重要である。また、いわゆる小1プロブレム、中1ギャップなどの集団の適応にかかわる問題に対応するため、円滑な学校間の接続に配慮した指導も必要となる。」と記されている。

以上のように、学校間の接続時の慎重かつ丁寧な対応が必要なことは以前から問われている。しかしながら、特別活動内の具体的な授業に関して行われた研究は見当たらない。

3. 研究の目的

本研究は、小・中学校を円滑につなぐための特別活動における授業実践「すてっぷ」プロジェクトを行い、小・中接続時の連携の可能性を探ることを目的としている。

「すてっぷ」とは、児童にも馴染みやすく、覚えやすい授業の名称として、「㊦そ野から㊧を ㊨なごう ㊩プロジェクト」の略称として用いたものである。確実に小学校卒業という山の頂上にたどり着けるよう、3つの段階を設定し、児童が中学校生活への一步(=step)を、希望をもって踏み出せるようなプロジェクトとした。小学校の教員と中学校の教員が共通認識をもちながら支援し合うことを前提に、授業実践を通して児童の更なる成長(=step up)の可能性を見いだす研究とした。

4. 研究の方法

(1) 実習校と実習方法

実習校：山梨県C市立M小学校

実習期間：2013年5月～2014年1月

観察実習：1学年～6学年

授業実践：6年1組 (30名)

6年2組 (32名)

(2) 観察実習による方法

1学期は全学年の授業観察を通して、小学生の実態の把握をした。そして2学期からは6学年を中心に、研究の課題を焦点化するために以下の視点を持ち参観させていただいた。

- ①小・中の組織、制度上の違い
- ②教師からの声かけ
- ③学習規律、学習方法
- ④担任の発達段階に応じた対応

(3) 授業実践による方法

授業内容は、中学校進学を前に、より円滑に中学校生活に適応できるようになることを目指した。児童が小学校と中学校の違いに気付き、夢や希望、進学への目標をもち、進学を前向きに捉えられるような構成とした。

5. 研究の結果と考察

(1) 観察実習の結果と考察

表1は、観察実習を通して見えてきた、日課とその内容の相違点を示している。これだけ数多くの違いに、進学直後は適応することに戸惑いを感じる生徒も多いだろう。

表1 小・中における日課とその内容の比較

観点	小学校	中学校
登校時	集団登校	個別登校
始業前	朝学習／朝読書	朝練習／朝学習
授業形態	学級担任制	教科担任制
授業時間	45分	50分
業間休み	2時限と3時限の間に20分	なし
給食	ランチルーム 全校一斉	ランチルーム 各教室
掃除	昼休み後	6校時後
放課後	下校	部活動
科目数	低学年 8教科 中学年 9教科 高学年 9教科 十英語活動	9教科10科目
テスト	単元テスト	定期テスト
服装	自由	制服
校則	なし	あり
チャイム	毎時間なし	毎時間あり

また、授業中の教師の声かけや、学級経営から表2のような実態が明らかになった。まとめると、小学校では具体的な指示を行うこと、授業中に個をほめる機会が多いこと、児童と教師の距離が近いことが見えてきた。

一方、それらについて中学校では、抽象的な指示をする、個をほめることは少なく、集団をほめる機会が多い、生徒と教師の距離が遠いと、小学校とは大きく異なる指導や対応を行っていることが多い。このことから、発達段階に応じた指導の変化を、緩やかにしていくことが必要になるのではないだろうか。

表2 1学年～6学年の授業観察より

	小学校		
	低(1・2)学年	中(3・4)学年	高(5・6)学年
学習規律	・授業開始時の姿勢の確認 ・あいさつの声の大きさ ・姿勢の良い列をほめる ・個別に姿勢をほめる ・椅子を入れて立ち上がる ・教師にOをつけてもらうとき 「お願いします」 ・「音がしないように椅子を引いて」	・姿勢をほめる ・「静かになってから始めます」 ・「～さんが見えてくれて嬉しい」 ・「もう少し大きい声だと先生に聞こえるんだけど」 ・「ノートが用意できたら、こちらを向いてください」	・説明を聞く時「鉛筆を置いて」 ・「他の人が話しているときは、邪魔をしない」 ・「先生が書いているときは、話をするのをやめてください」 ・「違う話をしている人いるのはおかしいか？」 ・「質問があるときは、サイン(挙手)をしてください」
	・時間の制限を設ける ・机間指導でOつけ ・良かったことをクラスで拍手 ・「鉛筆1本と消しゴムだけ出してください」 ・児童のプリントの拡大版を黒板に貼る ・「鉛筆を置いて」 ・板書の時「見て、どう？」 ・具体的に練習する文字の個数を伝える	・その時間の目当ての確認 ・あと～人と具体的に指名 ・「～さんの意見を聞いて『そうか！』と言うのは大事」 ・「見本を児童にさせる」 ・まとめの時間に個人ができるようになったことをほめる ・「～秒間練習をどうぞ」(タイマーを使用する) ・立って漢字の書き順を空書き、または机に指で練習して、覚えたら座る ・教科書のページの拡大版 ・「わかりましたか？何か質問はありますか？」	・「時間までは静かに自分でやりましょう」 ・「よろしいですか？」 ・「ノートを開きます」 ・「顔を上げて、よく見て」 ・具体的な動作をほめる ・「では、説明をどうぞ」 ・間違えを共有する ・「学習感想を、3分で」 ・ノートと同じ板書 ・「～さんのグループは、相手が長く話せる質問をしていました」 ・「教科書をもって…読みます」 ・「2つ指示を出します」
授業中	・学習規律	・学習規律	・学習規律
	・授業中	・授業中	・授業中
形態	・全員前を向いている	・全員前を向いている	・全員前を向いている ・コの字型の机の配列
	・机の中のものの入れ方 ・椅子の後ろカバーへのものの入れ方 ・鉛筆の持ち方 ・良い姿勢の見本 ・聞き方あいうえお	・黒板側の掲示はしない ・棚の中をカーテンで見えなくする (発達障害の児童への配慮) ・聞き名人 あいうえお ・話し名人 かきくけこ	・学習の進み方 ・ノートの達人 ・話し方テクニック ・5W1H ・家庭学習の手引き ・自主学習ノート掲示
掲示物	・名前と日付を書きましょう ・書き終えた人は膝に手を置き前を見る ・児童が手を挙げるとき「同じです」「付け足します」 ・児童が発言時「～で、いいですか？」 ・授業中の改善がない時は、休み時間に一緒に勉強する	・日付を記入 ・ノートへのプリントの貼り方の統一「のりをだして」 「こう貼ってください」	・日付の記入 ・確認時に「はい、いいです」 ・確認作業の時、児童が「同じです」 ・発言時「私は～です、みなさんどうですか？」 ・「～です。理由は…だからです」 ・ノートへのプリントの貼り方の統一
	・名前と日付を書きましょう ・書き終えた人は膝に手を置き前を見る ・児童が手を挙げるとき「同じです」「付け足します」 ・児童が発言時「～で、いいですか？」 ・授業中の改善がない時は、休み時間に一緒に勉強する	・日付を記入 ・ノートへのプリントの貼り方の統一「のりをだして」 「こう貼ってください」	・日付の記入 ・確認時に「はい、いいです」 ・確認作業の時、児童が「同じです」 ・発言時「私は～です、みなさんどうですか？」 ・「～です。理由は…だからです」 ・ノートへのプリントの貼り方の統一
学級経営	・名前と日付を書きましょう ・書き終えた人は膝に手を置き前を見る ・児童が手を挙げるとき「同じです」「付け足します」 ・児童が発言時「～で、いいですか？」 ・授業中の改善がない時は、休み時間に一緒に勉強する	・日付を記入 ・ノートへのプリントの貼り方の統一「のりをだして」 「こう貼ってください」	・日付の記入 ・確認時に「はい、いいです」 ・確認作業の時、児童が「同じです」 ・発言時「私は～です、みなさんどうですか？」 ・「～です。理由は…だからです」 ・ノートへのプリントの貼り方の統一
	・名前と日付を書きましょう ・書き終えた人は膝に手を置き前を見る ・児童が手を挙げるとき「同じです」「付け足します」 ・児童が発言時「～で、いいですか？」 ・授業中の改善がない時は、休み時間に一緒に勉強する	・日付を記入 ・ノートへのプリントの貼り方の統一「のりをだして」 「こう貼ってください」	・日付の記入 ・確認時に「はい、いいです」 ・確認作業の時、児童が「同じです」 ・発言時「私は～です、みなさんどうですか？」 ・「～です。理由は…だからです」 ・ノートへのプリントの貼り方の統一
実感した発達段階の特徴	個の児童への対応 その場での指導と評価	個と集団との関連づけ 良い例を学ばせる	集団の中の個への意識 自主的判断を促す

(2) 授業実践の結果と考察

①授業実践の概要

表3に、3つの「すてっぷ」の授業計画を示す。「すてっぷ1」では、児童が中学校に対して現在理解していることや疑問に思うこと、不安に感じることなど、グループディスカッションを通して共有する。「すてっぷ2」では提示する資料を手がかりに、児童が中学校生活の理解を深めて、「すてっぷ1」で出てきた疑問や不安を解決できるようにする。

以上のように、プロジェクトを3回の授業で構成し、内容の一貫性を大切に特別活動の授業とした。図1に、学習のプロセスのイメージを示す。

②児童の変容をみとめるための工夫

プロジェクトへの取り組み前後では、同一内容のアンケート(次頁図2)を行った。授業を通して児童が自分を振り返り、生活改善へとつながる成長の変化を見ることとした。

表3 授業計画と学習目標

時間	学習内容	学習目標	留意点
第1時	すてっぷ1【現状把握し共有する】 グループディスカッション後各班から出た考えを発表し、中学校に対する思いを仲間と共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 全員が中学校に対して思う様々な気持ちを表現することができる 友だちの考えを聞くことで、自分の考えを広げることができる 	グループディスカッションにすることで、児童は自由に思っていることを発言できる。
第2時	すてっぷ2【相違点を埋め理解を深める】 前時に出てきた児童の知りたいことが明らかになるような資料により、中学校の生活全般をより明確に捉え、理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の学習や生活の様子について知識を得、理解を深める 不明な点が明らかになることにより、中学進学への意欲や関心が高まる 	多くの情報を提示することにより、中学校の生活を具体的に理解し、心構えができる。
第3時	すてっぷ3【進学に向けて考えを広げる】 入学までに身につけたい力を再確認し、残りの小学校生活で出来ることを考え、目標を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 充実した中学校生活にするために、小学校で身につける必要がある力を具体的に挙げる 個々の課題から、残された小学校生活に必要な力を確認し、方法を含めた目標を掲げる 	各自が自分の目標を明確にしなが、それを周囲と共有することで進学への安心感がもてる。

「すてっぷ3」では、「すてっぷ2」で得た中学校の具体的な生活の理解をもとに、各自が改めて自分自身の生活を見つめ直すことにする。そして、現状を振り返り、残された小学校生活で努力を要する点を目標に掲げ、改善する意識へと考えを発展させ、実際に行動できるようになることを目標とする。

また、授業の中ではプロジェクトシート(次頁図3)を使用した。授業前の0合目、授業後の10合目のそれぞれの時点で、「中学校とはどんなところでしょう?」という同一の問いかけをした。その3回の授業前後の記述内容の変化で、プロジェクトを通しての児童の中学校生活に対する思いや心構えの変容を見ることとした。プロジェクトシートは、「自分の成長過程が具体的内容を伴って可視的に把握でき、学習の成果を振り返ることが可能になる」(堀, 2013)ことをねらって作成した。1枚のシートを3時間の授業で継続して使用し、各時間の学びの成果を記述できるように工夫した。



図1 学習のプロセス

今の自分は・・・? アンケート 月 日 ()
6年 組 氏名 ()

★たて割り行事や修学旅行を経験して、あっという間に1学期を終えようとしています。
小学校最上級生としての「今の自分」について考えて、下のアンケートに○をつけてください。

4—いつもそう 3—時々そう 2—あまりそうではない 1—全くそうではない

①朝は自分で起きている 4 3 2 1

②学校の決まりを守っている 4 3 2 1

③友だちにしっかり注意できる 4 3 2 1

④まわりの人を大切にしている 4 3 2 1

⑤授業中、たくさん発言をする 4 3 2 1

⑥学校の行事に進んで取り組んでいる 4 3 2 1

⑦自主学習を毎日している 4 3 2 1

⑧わからないことは先生に聞いて疑問を解決している 4 3 2 1

⑨自分の考えを伝えることができる 4 3 2 1

⑩大きな返事で意思を示せる 4 3 2 1

図2 アンケート

すそ野からてをつなごうプロジェクト
0→10回までが、6年 組 氏名 ()

10回目 プロジェクトを終えて、中学校とはどんなところでしょう?
体の割合がなくなる10分休けい。テストの順位がでる。
たまに少くかえる。部活はあつた。1日はあつた。
時間があるから。自分で生活した女中が関係。だんぱん。
おまけ。それ以外、自分で学ぶことが。自分で自分の行動が責任。
そのとくにやる所はあつた。

8回目 12月10日(火)
今日わかったことを書いてください。
自分の生活が少し良くなった。
友人関係が少し良くなった。
自分で学ぶことの大切さ。
かんぱりたいてい。

7回目 11月12日(火)
中学校で楽しみなことは何ですか?
部活

知りたいことは何ですか?
登校が遅れてもいいか。部活の
休むたい何人。

心配なことはありますか?
友達関係

0回目 中学校とはどんなところでしょう?
勉強が楽しい。部活がなくて時間があつくる。
きびしい。

図3 プロジェクトシート(記入例)

③3回の授業実践の内容と検証

(a) 共有する(第1時〈7月12日実施〉)
各グループで中学校について「楽しみなこと」、「知りたいこと」、「心配なこと」の3点についてディスカッションをおこなった。そこで出された児童のもつ中学校に対する意識をまとめると、表4のようになった。全項目を通して共通点が見られ、「楽しみだからこそ知りたい」、また「心配だからこそ知りたい」という気持ちが強いことがわかる。

表4 中学校に対する意識

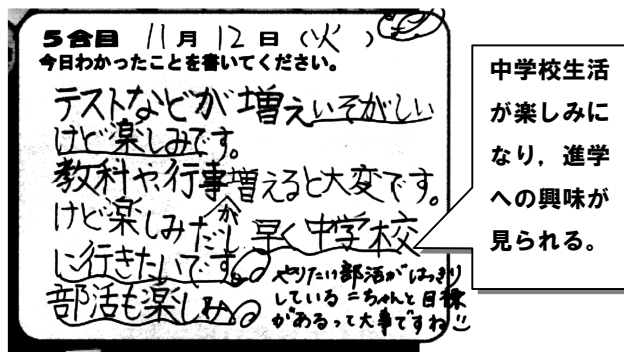
楽しみなこと	
大多数共通の意識	少数からでた意識
1 部活(全ての班より)	校舎内・図書の本・ 10分休み・遊び
2 友だち(先輩も含めて)	
3 行事	
4 学習	
心配なこと	
大多数共通の意識	少数からでた意識
1 学習レベルについていけるか (テスト、受験についても)	背が伸びるか・厳しそう・ 勉強と部活の両立・ 迷子にならないか
2 人間関係(友だち・先輩・先生)	
3 部活	
知りたいこと	
大多数共通の意識	少数からでた意識
1 どんな部活があるか	給食のメニュー・先生方の名前・ クラス分け・秘密・歴史・伝統・ 〇〇中入学には受験が必要か・ 居残り勉強はあるか・高校受験 について・広さ・どんな教室が あるか・人数
2 どんな教科を勉強するか	
3 学校行事について	
4 スケジュール(登校から帰りまで)	
5 決まり	

(b) 深める(第2時〈11月12日実施〉)
前時のグループディスカッションで児童から出された、中学校について知りたいことについて、主にプレゼンテーションソフトを用いて授業を行うことで、新しい発見をすることをねらいとした。同時に児童の中学校に対する既存のあいまいな認識と、実際の中学校の様子との差に気づき、知識が明確になることを目的とした。
授業の際、大部分の児童が進学することになっている学区の中学校から、中学校生活がより具体的に理解できるような資料の提供を

していただいた。児童が入学前に中学校について詳しく知る機会を設けることで、中学に対して不安な気持ちや心配に思うことへの解消につながることを期待した。

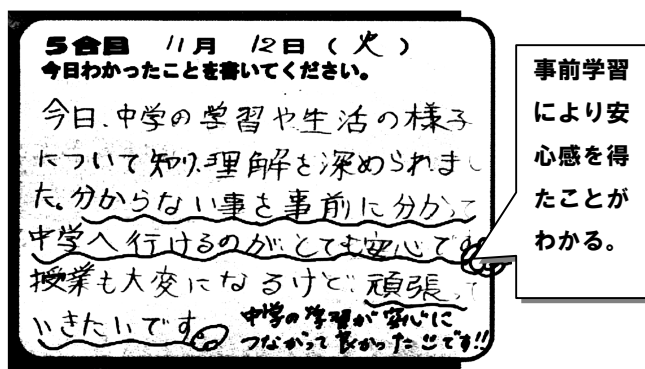
授業後、多くの児童の記述から、学習前には漠然とした認識でしかなかった中学校に対して、具体的な生活や学習内容、制度について知識を得、以前より中学への興味関心が高められたというもの（図4-1）が見られた。

また、意欲や安心感へつながったもの（図4-2）も数多く見られた。このことから、中学校の生活の実情を詳細に知るために、本時のような事前学習を行うことが進学時に大変役立つことがわかった。



中学校生活
が楽しみに
なり、進学
への興味か
見られる。

図4-1 A男児の記述



事前学習
により安
心感を得
たことが
わかる。

図4-2 B女児の記述

(c) 広げる（第3時〈12月10日実施〉）

学習の最終段階の第3時では、事前に行ったアンケート結果をもとに、中学進学を前に今の生活の中で改善の必要のある点を児童自身が確認し、それらを新たな目標として決定し、行動にまでつながるよう、意識を高められるようにした。

表5①～⑩に示したアンケートの質問項目を作成する際、『中学1年生の学習と生活に関する調査』（ベネッセ教育総合研究所、2012）を参考にした。この調査結果は、中学校生活が楽しいと回答した生徒が、中学校の初期段階で努力していた点を明らかにしている。逆に言うと、これらの点が身につけている生徒は、中学校生活を楽しく過ごすことができるというものであった。

それらを、本時では進学前に身につけておきたい力と位置づけ、アンケート項目とリンクさせた（表5参照）。そうすることで、自分のアンケート結果と身につけたい力を客観的に比較分析することが容易になり、また、目標を設定する際、自分に不足している部分が明確になり、どの力を高めたら良いのかの具体的な指標となることをねらいとした。

授業後半では、『中学校進学という共通課題に直面する児童同士がたがいに支えあう』というピア・サポートの側面から、各自が設定した目標に対して仲間同士で応援メッセージを送り合うという、支え合いの場面も設けた。進学が近づくにつれ実感が増すであろう不安な思いをより和らげ、児童同士の心のつながりをさらに深めるという意図であった。

表5 アンケートの質問項目と身につけたい力の対応

自律的な生活習慣を身に付ける力		良好な友人関係をつくる力		学校の活動に熱心に取り組む力		自分で学ぶ力		中学校生活で役立つ力	
アンケートの質問									
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
朝は自分で起きている	学校の決まりを守っている	友だちにしっかりと注意できる	まわりを思いやる	授業中、積極的に発言する	学校行事や行事に積極的に参加する	自主学習日や自習日	わからない先生に質問する	自分の考えを伝える	大事なことを返す

本時の授業により、図5-1のように自分の目標達成のために、残りの小学校生活に必要な力を身につけようと意識している記述が見られた。また、図5-2のように仲間に応援されたことにより、意欲が更に深まったことが読み取れるものもあった。

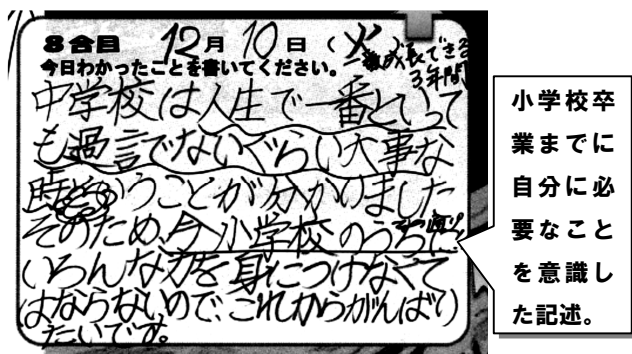


図5-1 C 女児の記述

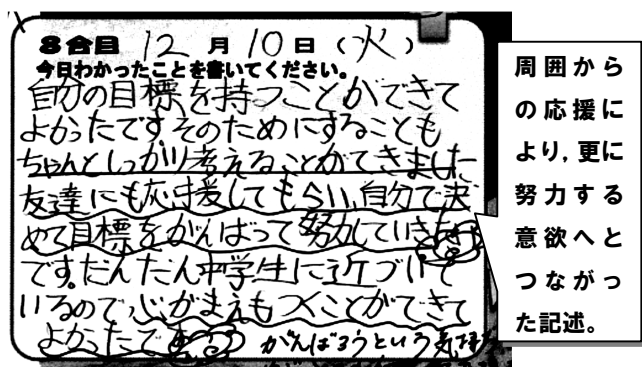


図5-2 D 男児の記述

④プロジェクト（3回の授業）実施前後の変容
(a) アンケートから見える変容

下記の図6に、プロジェクト前後で行ったアンケートの結果を示す。アンケートとして数値を可視化したことにより、児童にとっては自分の生活の変化がわかりやすいという利点があった。また、「すてっぷ3」の授業で目標を設定する際、アンケートの数値を上位の4のレベルにしたいと考える児童も多く、数値を自分の中での達成度の目安としていた。

数値の変化をみると、10項目中9項目で上昇がみられた。この要因として、学級担任が「すてっぷ」の授業と並行して、同時に身につけたい力を意識させる取り組みを日常化したことが考えられる。身につけておきたいことを13か条の点検表にまとめ、10月より児童は毎日自己の振り返りに取り組んだ（次頁表6）。手順は、

- ・ 帰りの会にその日の自分を振り返る
- ・ 表に自己評価を書きこむ
- ・ 一週間ごとに担任が回収
- ・ コメントを記入し返却
- ・ 次週の改善へとつなげる

である。

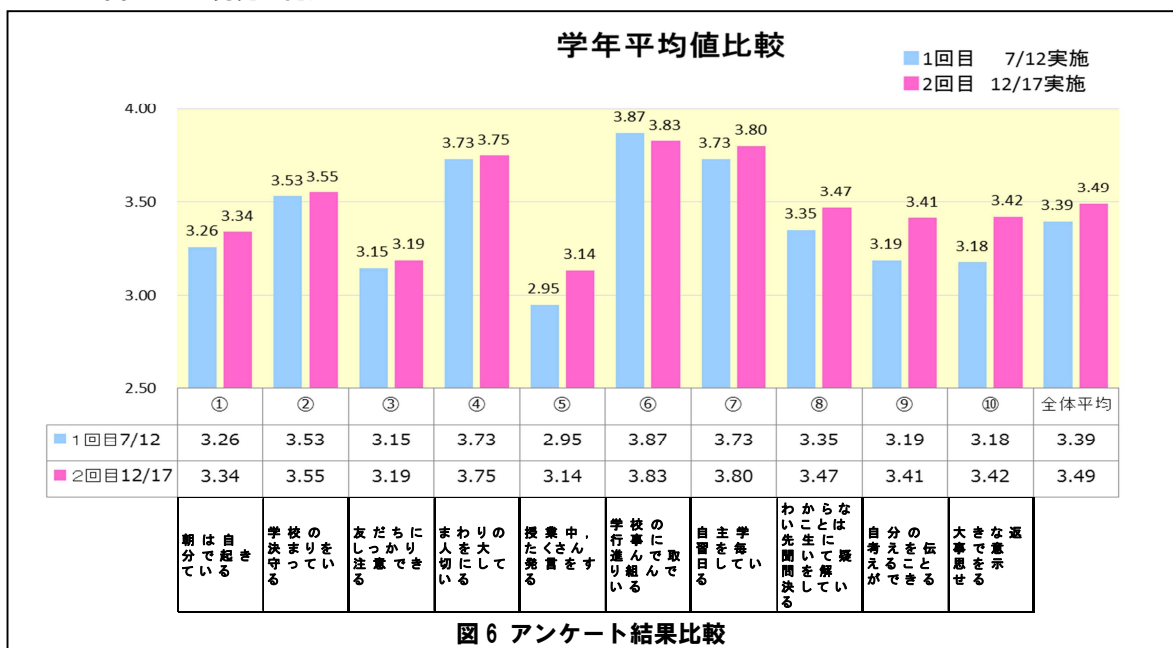


図6 アンケート結果比較

「すてっぷ3」の授業を終えた時点から、各自の努力改善目標を付け加え、現在では14項目での取り組みとなっている。担任と緊密にやりとりをすることで研究内容と学級の取り組みとの共同体制がもてたことは、小・中連携の一つの形として大変意味深いものであると実感できた。

(b) 記述から見える意識の変容

児童のプロジェクトシート0合目と10合目の記述を比較してみたい。学習前にもっていた中学校に対する不安や漠然とした認識が、プロジェクト、つまり3時間の授業後には、進学に希望をもち、心構えが見られたものや、中学の3年間を人生の大切な時期と捉えられた記述へと変化している。図7-1～3に例を示す。

表6 生活改善に向けての学級内活動

今週の重点目標 (12月9日~13日)		氏名													
授業中自分の考えをもつ															
自己評価・・・○ △ ×															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
項目	家庭学習を1時間以上する	よい姿勢を身につける	自分からあいさつをする	ほっつきした返事をする	忘れ物なし	連絡帳を丁寧に書く	1時間に一度手を挙げる	質問をする	給食を残さずいただく	整理整頓をする	無言をする	顔をしっかりと向く	顔をしっかりと向く	授業中発言をする	
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
火	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
木	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	△	
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
自己反省	<p>新しく立てた重点目標はあまり守れなかった。中学も近づいてきたので全回になるよう意識しよう!</p> <p>授業に際しては新しい自分考えをもつ機会は必ず見ます。</p>														

0合目 中学校とはどんなところでしょう?
テストなどがたくさんあり大変だなと思う

10合目 プロジェクトを終えて、中学校とはどんなところでしょう?
中学校は大変な所もあるけど楽しい所でもあり人生の大事な時期もあることがわかりました。だから今の小学校生活で中学校での必要なことを習っていきたいと思

図7-1 E男児の記述の変化

プロジェクト前には中学校は大変なところというマイナスのイメージをもっていたが、大変だけれども楽しいところ、大事な3年間であるという前向きな認識へと変化していることがわかる記述例。

0合目 中学校とはどんなところでしょう?
部活がある、それぞれの課目の担当の先生がいる。同学年の人数が多い。

10合目 プロジェクトを終えて、中学校とはどんなところでしょう?
中学は小学校より規則正しく落ちついて生活しているレベルが高いなと思いました。今の自分では、中学校生活についていけるか心配なので今から準備をしていきたいと思

図7-2 F男児の記述の変化

今の自分を客観的に分析し、中学校生活までに準備をしたいという心構えが明確になっている記述例。

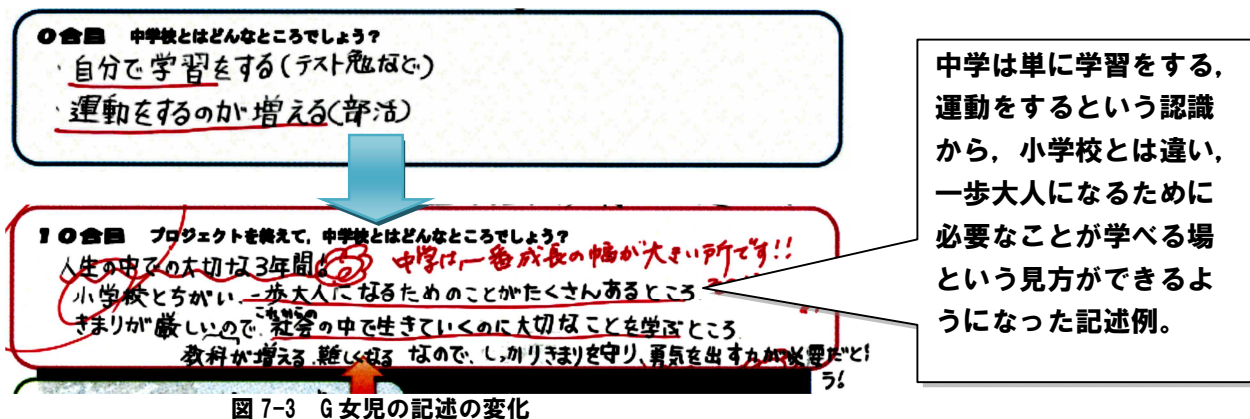


図 7-3 G 女児の記述の変化

以上数例を挙げたが、実際には多くの児童の授業後の記述から、進学を前向きにとらえ、入学する心構えを新たにすることをみとることができた。更に、より充実した中学校生活になるように自分を振り返り、残された小学校生活の中での行動の改善にまでつながったことが最も大きな成果であると考えられる。児童にとって、中学校への進学は単なる義務教育の延長ではなく、大切な成長の節目である。中1ギャップを未然防止するためには、小・中学校の双方向から協力をして、適切な指導や児童の学習を通して対応をすることが必要であると実感した。

6. 今後の課題

小学校では授業として中学校への進路学習をしている例はほとんどなく、児童は中学校の行事の一環として行われる「一日体験入学」で中学の実態を垣間見る程度である。本研究では、小学校において、中学校についての学習を計画的な授業としてとり入れることの有効性が確認できた。今後は中学校を理解する具体的手立てを、小学校の教育課程の中に位置付ける時間と内容について、更に検証を深めたい。

また中学校に、小学校と定期的・計画的に情報や資料の交換を緊密に行う専門的な分掌の設置が重要であると痛感した。課題となっている中1ギャップを解消し、進学直後の生

活をできるだけ違和感なく始められるように、小・中が連携して充実した事前の準備ができるような組織と機会を、中学校区の中にどう設けるかについても研究していきたいと考えている。

7. 引用・参考文献

- ・ベネッセ教育総合研究所サイト
<http://berd.benesse.jp/>
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会
 (2012)「小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理(骨子案)」平成24年4月
- ・堀哲夫(2013)「教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性」p.22, 東洋館出版社
- ・石川晋・石川拓・高橋正一(2009)「中1ギャップ 中学校生活になじむ指導のポイント」, 学事出版
- ・児島宏・佐野金吾(2006)「中1ギャップの克服プログラム」, 明治図書
- ・文部科学省(2008)「小学校学習指導要領」
- ・文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説 特別活動編」
- ・文部科学省(2011)「児童生徒の問題行動等 生徒指導上の諸問題に関する調査」
- ・山梨県公立小中学校長会北巨摩支部中学校 Aグループ(2013)「学校不適応生徒への対応の在り方工夫・改善」資料